

【Bチャレンジ】

(地域連携事業)

背景

2020東京パラリンピックを終え、メダル獲得ランキング3位の結果を残すことができたが、他の強豪国と比較し、選手の高齢化が進み、女性選手が少ないのが現状である。日本がボッチャ強豪国として継続していくために、次世代の選手発掘と育成強化を継続して行うことが中央競技団体としての責務である。

さらに現在、各地域でボッチャブームが巻き起こり、多くの体験会や大会が実施され、障がいあるなしに関わらず、社会的にボッチャが普及している。

以上のことから、中央競技団体としては、新たなステージを目指し、新しい活動を行う段階にあります。

人材の育成・養成により、普及・強化・PRにつなげること、また、国民的スポーツにすることを目指し、ボッチャをすべての人に届けることができるような組織作りが求められている。

事業目的

【強化】選手強化・指導者育成

2020東京パラリンピックを終え、メダル獲得ランキング3位の結果を残すことができたが、他の強豪国と比較し、選手の高齢化が進み、女性選手が少ないのが現状である。日本がボッチャ強豪国として継続していくために、各地域や、ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト、全国ボッチャ選抜甲子園大会と連携した選手発掘と育成を目的とする。また、指導者資格を明確化し、国際大会を目指す選手の競技力強化を図る。

【人材育成】審判・クラス分け員の育成

地域での普及振興・選手育成のために、ボッチャ競技を理解し、ルールを把握した中での競技大会の実施が必要。また、今後、BISFed（国際ボッチャ連盟）への加盟団体として国際的な知識を持つ上級者への道筋のひとつとし、さらに、地域に根付く組織づくりができる人材を育成する。

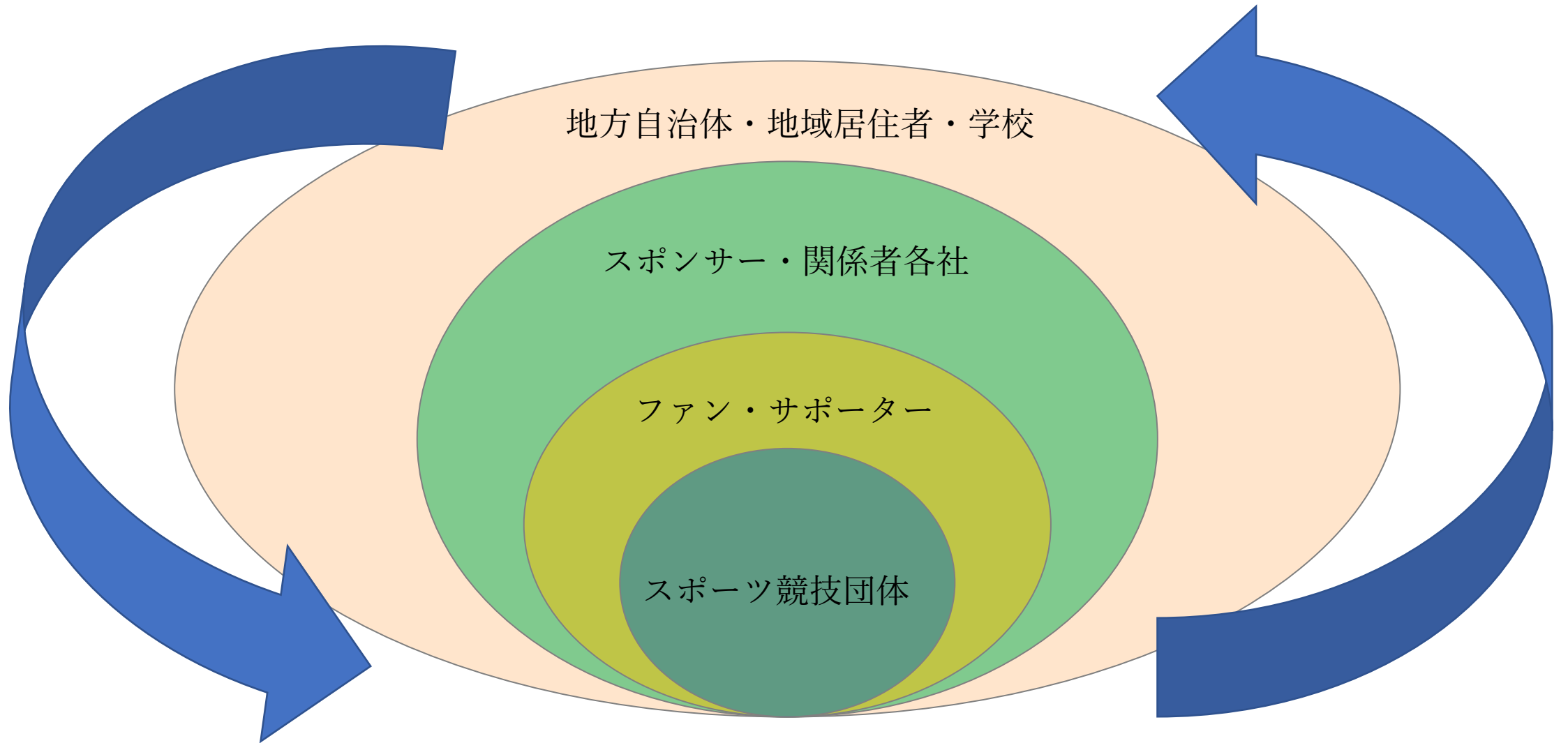
【地域連携】加盟団体組織化への組織活動の補助

地域での普及振興・選手育成のために、健全な組織運営が必要。自治体と連携し、大会運営・選手育成ができる仕組みや組織のマネタイズ化の助言を行う。

【社会連携】全国各地でのボッチャの普及振興

地域での普及振興・選手育成を行うことにより、ボッチャと関わることで共生社会の実現、健全・健康な社会づくりが可能。自治体を目指すSDGs（持続可能な目標の実現）の推進を競技を通じて行うことで、地域づくり・地域創生の一助を目指し、連携体制の構築を目指す。また、豊かなスポーツ文化の醸成・垣根のない社会を目標に、新たなフェーズの基盤を構築する。

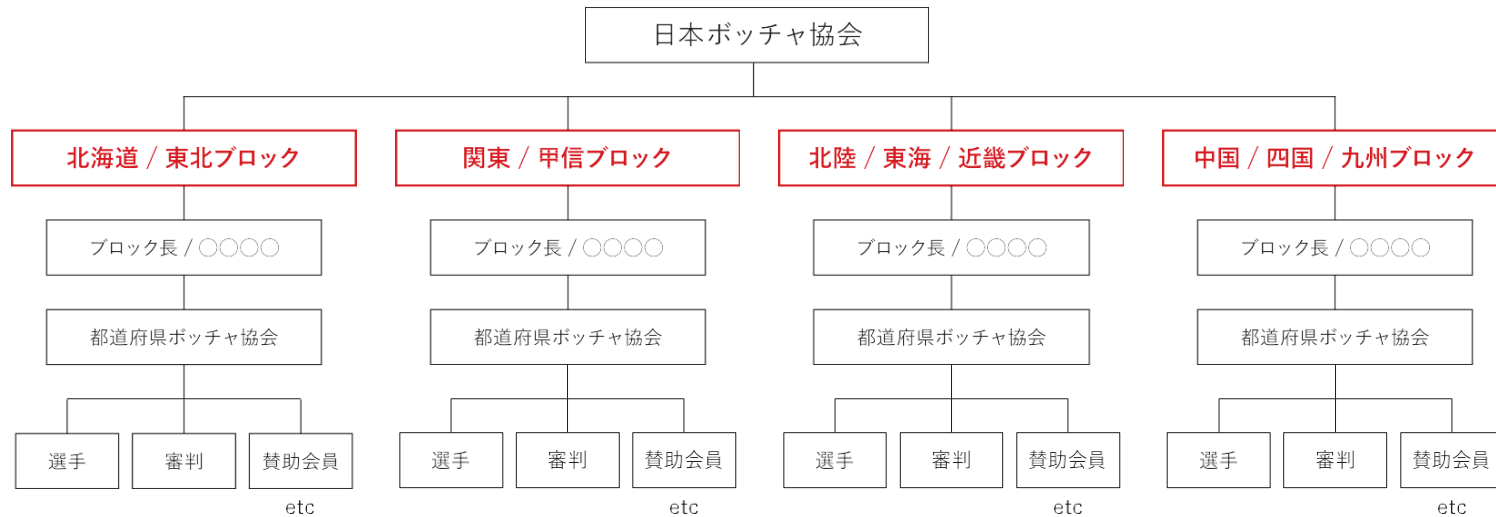
外的連携のかたち



内的連携のかたち



各都道府県ポッチャ協会をJBOAの加盟組織に位置付け、選手発掘・育成強化を行い、日本選手権の予選大会運営、本大会への選手派遣を行う体制を作る。それぞれの運営を地方ブロックで分担することで組織の円滑な運営、競技力の向上、認知拡大、共生社会の実現を目指す。



地域のメリット・デメリット

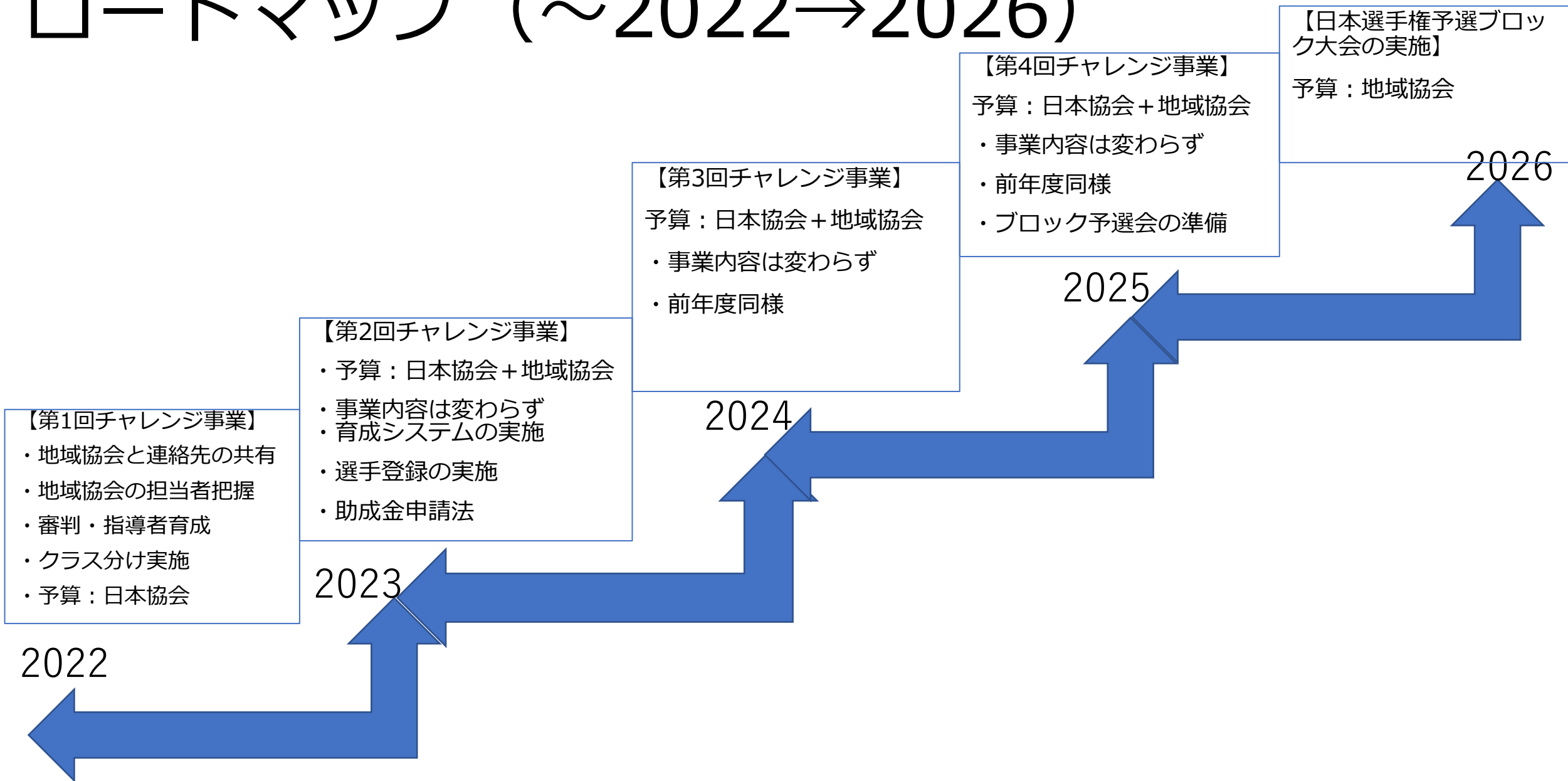
メリット

- 1, 審判、指導者、クラス分け知見の提供
- 2, 国際情報の共有
- 3, 事業予算は日本協会負担（2025年まで）
- 4, 選手の大会参加機会の創出
- 5, 選手のブロック合宿の実施
- 6, 選手の大会参加の金銭的な負担減
- 7, 会場の確保サポート
- 8, D級審判員の資格取得
- 9, コーチB資格取得
- 10, 選手クラス分けの実施
- 11, クラス分け委員資格取得
- 12, 地域大会運営の共有

デメリット

- 1, 地域ボランティアの確保
(2日間共、10名程度)
- 2, 各講習会、選手への募集案内
- 3, 会場の確保
- 4, 会員登録業務

ロードマップ（～2022→2026）



事業内容

日程	審判	クラス分け	指導者	選手
1日目				
9:30		受付		
10:00	サポーター 講習	サポーター 講習	サポーター 講習	技術練習
11:00				
12:00		昼食		
13:00				
14:00	審判講習	クラス分け 講習	コーチB 講習	トレーニング 作成
15:00				
16:00				
17:00				
2日目				
9:30		受付		
10:00	審判講習 実技	選手観察	選手観察 コーチング	予選リーグ
11:00				
12:00		昼食		
13:00				
14:00	審判講習 実技	クラス分け 講習 選手観察	選手観察 コーチング	決勝 トーナメント 試合結果により、強化指導部推 薦選手として育成選手選考会に 推薦する
15:00				
16:00			終了	

2022年実施計画

1 地域別アスリートチャレンジ事業 年7回実施予定

- 北海道・東北ブロック（福島：トヨタクラウンアリーナ）4月2, 3日
- 関東ブロック（東京：日本財団パラアリーナ）3月26日、27日
- 北陸ブロック（富山：ありそドーム）4月2, 3日
- 東海ブロック（愛知：中京大学）3月26, 27日
- 近畿ブロック（大阪：大阪体育大学）4月16, 17日
- 中四国ブロック（広島：会場未定）5月21.22日
※クラス分け、クラス分け講習会は同場所で4月16日実施
- 九州ブロック（福岡県：春日市クローバープラザ）4月16, 17日

2 女性アスリートチャレンジ事業 年1回実施予定（東西隔年実施）

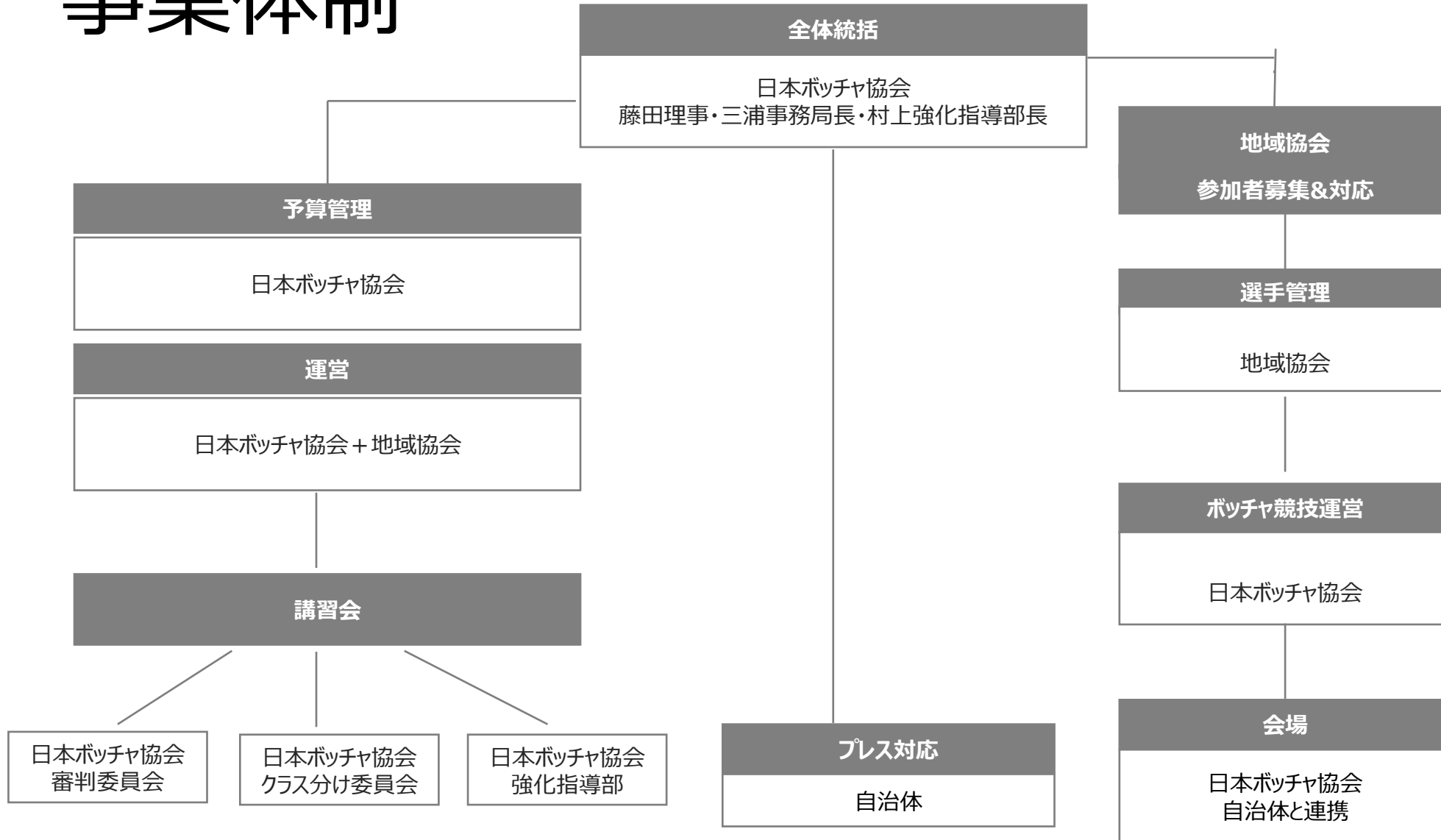
- 2021年度開催 1月22日23日（大阪：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター）
- 2022年度開催 9月予定(2日間)（東京：日本財団パラアリーナ）

今後の調整内容

(日本ボッチャ協会より発信)

- 1, 2月10日 実施要項の公表
- 2, 2月15~28日 募集開始 (各部で取りまとめ)
- 3, 2月中旬 開催県協会との打ち合わせ (1回目)
 - ・実施運営内容の確認
 - ・役割分担
 - ・スタッフ、ボランティアの人数確認 など
- 4, 3月初旬 開催県協会との打ち合わせ (2回目)
 - ・使用会場の準備
 - ・準備物確認
 - ・タイムスケジュールの確認と運営の流れの確認 など

事業体制



将来像

- 各県で予選会規模の大会実施
- 地元でのパラリンピック選手の継続した輩出
- 各県で実施した予選会で育成選手の選出
- 各県でマネタイズできる団体の仕組みを構築